

# 好奇心とは

探索行動の根源（動因） = 好奇心（Berlyne, 1960）

例えば、ふと散歩をしたり、読書をしたり、窓の外を見たりなど、報酬や罰にとらわれない自由な活動の根源に、好奇心がある（波多野・稲垣, 1971）

→すなわち「何を知りたい」や「何かを体験したい」

といった行動の原動力に**好奇心がある**

→そのため**好奇心によって動機づけられる探索（好奇心探索）の特徴は、新奇性探索を示すことが多い**(Litman & Pezzo, 2005; Renner, 2006)。

2

# 对人的好奇心に関する尺度開発と個人差研究

京都大学大学院教育学研究科 研究員  
西川 一二

1

# 科学的な好奇心は、すべて同じか？



アインシュタイン

アインシュタインは、「わたしには、特殊な才能はありません。ただ、**熱狂的な好奇心**があるだけです。」(Mayer & Holms, 1996)。

自らの科学的達成の原動力として、**熱狂的な好奇心**をあげている。好奇心は教育や発達の分野で関心を持たれており(Tough, 2013)、特に科学教育において、その役割が重視されている(Jirout & Klahr, 2012)。

ダ・ヴィンチは人体の仕組みを**知りたいために**教会に運ばれた犯罪者の死体を泥棒に盗ませ、自宅にその死体を運ばせ、夜中、解剖していた。また妊婦の死体を解剖して、胎児の成長過程を知ろうとした。



レオナルド・ダ・ヴィンチ

3

# 側溝に5時間寝そべりスカートの中のぞく... 溝から「髪の毛」はみ出て発覚 神戸、28歳会社員逮捕

(産経west, 2015年11月9日)

URL : <https://www.sankei.com/west/news/1511109/wst1511090031-n1.html>

道路の側溝内におおむけに寝そべり、女性のスカートの中をのぞき見ようとしたとして、兵庫県警東灘署は9日、県警防止条団違反容疑で神戸市東灘区深江北町、会社員の男(28)を逮捕した。「のぞいたことに間違いない」と容疑を認めている。

■ 2年前も逮捕...「生まれ変わったら『道』にになりたい」

逮捕容疑は8月16日午前7時50分ごろ、同区岡本の道路にある深さ約60センチの側溝におおむけに寝そべり、格子状のふたのすき間から通行中の女性(37)のスカートの中をのぞき見ようとしたとしている。

同居によると、男は同日午前3時ごろから約5時間におもむきで側溝内に潜り込み、スマートフォンを手に盗撮の機会をうかがっていた。被害女性が側溝のふたから髪の毛が出ているのを不審に思って足元に視線を落とすと、男と目が合い1.10番。駆けつけた同署員が事情を聴いていた。

## 好奇心？

4

## 好奇心の領域 (普遍的な好奇心の基本領域)

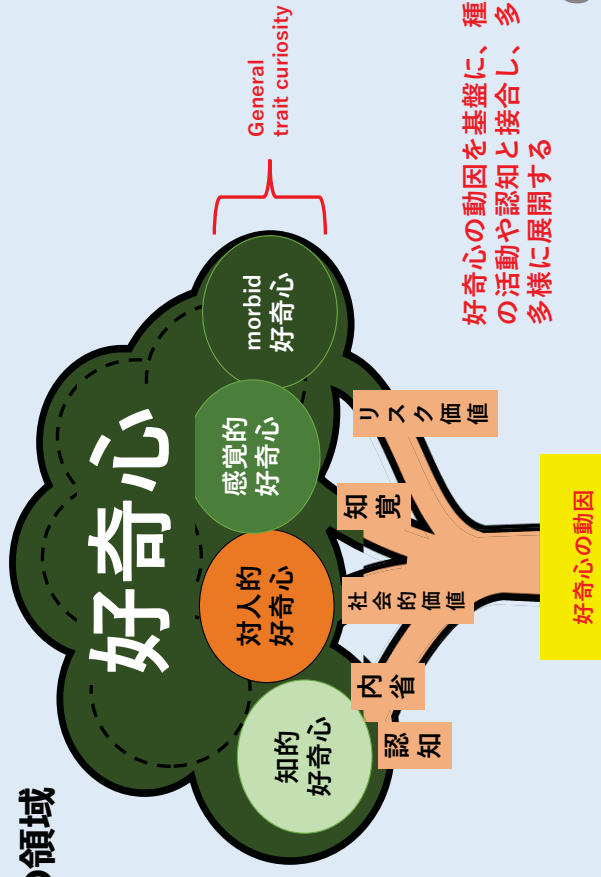
好奇心の個人差研究において、好奇心の各領域は探索行動と結びつく主要な情報領域(知的情報、感覚・知覚情報や対人情報など)によって位置づけられている (Berlyne, 1960; Litman & Pezzo, 2007)。

※ 研究が集中してきたのは、知的情報領域や感覚・知覚情報領域の好奇心であった

- ・ 問題や課題などの知的情報に関する探索行動の動機づけを示した「知的好奇心(Epistemic Curiosity)」
- ・ 音・光・触覚などの感覚・知覚情報の領域に関する探索行動の動機づけを示した「知覚的好奇心(Perceptual Curiosity)」
- ・ (性的)興奮を求めて危険な刺激を探索行動の動機づけを示した「Risk Seeking (リスク希求)」 および「Morbid Curiosity」
- ・ 人の心理や秘密などの対人情報の領域に関する探索行動の動機づけを示した「対人的好奇心(Interpersonal Curiosity)」

5

## 好奇心の領域



6

知的的好奇心：問題や課題などの知的情報の領域に関する探索行動の動機づけ

知的的好奇心 = 問題解決場面での知的探索



知的好奇心の2タイプ = 知的探索の方略の2タイプ

7

## 「知覚的好奇心(Perceptual Curiosity)」



「知覚的好奇心 (Perceptual Curiosity)」  
音・光・触覚などの感覚・知覚情報を通して新しいこととや経験していないことを感じたい

8

リスク希求およびMorbid Curiosity：  
(性的)興奮を求めて危険な刺激を探索する

- ・シユミット博士
- ・・・・高名なヘビの研究者



出典：ガラハイア 寝業へビに噛まれた科  
学者が、死の前まで体に起きた変化を克  
明に記録した「死の日記」  
(URL)http://karapaia.com/archives/52  
204611.html

非常に希少な毒蛇の毒効果を調  
べたいために(わざと?)毒蛇の  
に自分の指を噛ませ、蛇の毒の  
効果を日記に記した。

世界で  
私だけが  
経験できる!

治療もせず観察しつづけたので、  
そのまま死亡。

**Morbid  
Curiosity** =  
モラルの範疇をこえた  
探索活動  
のぞき、死体収集など



## 対人的好奇心の重要性 1

対人的好奇心は、対人情報の獲得を  
するための対話、覗きや推論とい  
った探索の動因である

- ・対人的好奇心による(対人情報の獲得を  
するための)探索は、新しい社会集  
団への加入、人間関係の構築、恋人  
の獲得や社会的地位の獲得の上で、  
重要な生得的行動とされている  
(Dunbar, 1996)。
- ・日常において、ゴシップ雑誌やテレビ  
のワイドショー番組がありふれてい  
るように、娯楽の中でも対人的好  
奇心を刺激する媒体も多く存在し、  
多く存在することは、人々が対人的  
好奇心をもち、探索を行うことのあ  
らわれである。



犯人の動機は?



## 対人的好奇心の重要性 2

対人的好奇心は、対人情報の獲得を  
するための対話、覗きや推論とい  
った探索の動因(対人的好奇心の動  
因)である

- ・社会脳仮説あるいはマキヤベリの知  
性仮説

人類の進化における大脳新皮質の  
拡大は、社会集団の規模の増大に  
伴う社会環境の複雑さと、これに  
伴うゴシップ情報や心理情報など  
の対人情報への適応によってもた  
らされたとする仮説 (Dunbar, 1996)

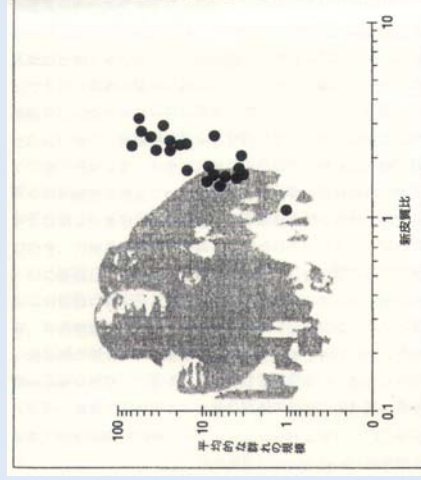
この仮説では、対人的好奇心による  
探索の動因によって、人類の言語  
の習得がもたらされたとしている。

## 社会脳仮説あるいはマキヤベリの知性仮説

Dunbar(1996)は、猿や類人猿の大  
脳皮質の大きさは、群れの規模に  
比例すると指摘。群れの規模が大  
きいと、他の個体との関係や社会  
環境が複雑になり、他の個体と協  
力を築かないと生きてゆけない。

猿や類人猿は、(社会的な)毛繕い  
行動で、リーダーへの忠誠など他  
の個体との同盟関係の確立・維持  
したり、紛争後の和解を行っている。  
Dunbar(1996)は、生得的に備  
わっている猿や類人猿の毛繕い行  
動を、人間でいうとゴシップへの  
動因にあたる。これを「これが対  
人的好奇心にあたる」とする。

脳に占める新皮質割合(新皮質比)と  
類人猿やサル群れの大きさ  
至ったのでは?





## 対人的好奇心研究

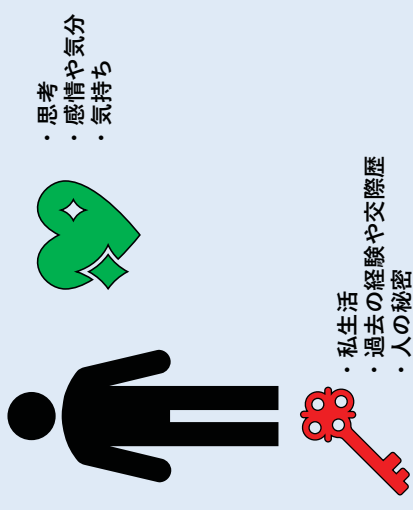
- 研究が集中してきたのは、**知的情報領域や感覚・知覚情報領域の好奇心であった。**
- 尺度研究や個人差研究 (Litman & Pezzo, 2007; Renner, 2006)
  - 対人的好奇心に関する下位領域が捉えられていない。
  - 妥当性に問題がある

例：「良い探偵になりたい(Would make a good private detective)」や「調査報道の記者になることを考えている(Think about being an investigative reporter)」がある。これらの項目で問われている内容や場面は、職業場面に限定されている。

### 日本独自の対人的好奇心尺度の開発に着手する

13

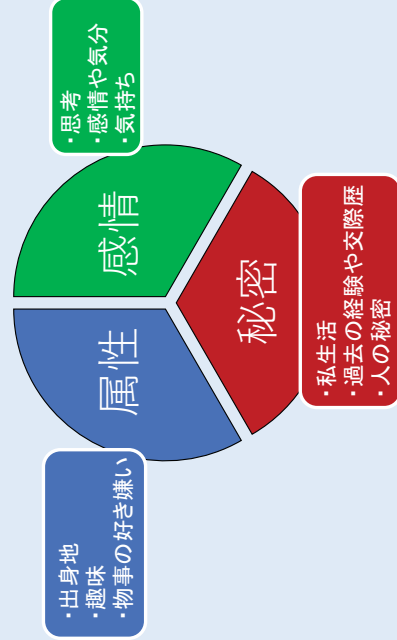
## 対人的好奇心の下位概念：対人情報の種類



14

## 対人的好奇心に関する研究

対人的好奇心には、いくつかの(下位)領域がある。この領域は、対人的好奇心の探索対象の種類(人の心理情報や秘密情報などの対人情報種類)によって分類され、対人的好奇心の各領域の性質や機能は、それぞれ異なるとされている(Litman & Pezzo, 2007)。



15

## 方法

### 調査対象者

大学生839名(男性262名, 女性577名, 平均年齢 = 18.68, 年齢のSD = 1.06)を対象に質問紙調査を実施。  
18歳~83歳の全国の市民を1500名(男性750名, 女性750名, 平均年齢 = 45.56, 年齢のSD = 14.92)を対象にweb調査を実施。

### 対人的好奇心尺度

予備調査で選定された対人的好奇心に関する11項目を用いた。教示文は「ふだんの自分にとどの程度あてはまると思いますか」とし、回答方式は、5件法(1 = あてはまらない, 2 = あまりあてはまらない, 3 = どちらともいえない, 4 = ややあてはまる, 5 = あてはまる)であった。

**分析方法** 因子構造を検討するため因子分析を行った。因子抽出では最尤法を用い、因子の解釈ではPromax回転を施した因子構行列を用いた。因子分析結果によって構成された尺度の内部一貫性を検討するため  $\alpha$  係数を算出した。

16

対人的好奇心尺度の因子パターン行列、と尺度構成後の尺度の平均、標準偏差、信頼性と尺度間相関

No.	項目	大学生調査 (n=839)		全国web調査 (n=1500)	
		感情	秘密	感情	秘密
3	しぐさから、人の気持ちを探ろうとする	.85	-.00	.72	3.91
2	声から人の感情を探る	.74	-.02	-.02	3.95
4	表情を見て、人の考えを推測することを楽しめる	.73	-.03	.53	4.16
8	行動を観察して、人の気持ちを推測しようとする	.65	.02	.08	4.5
5	人の秘密を知りたい	.02	.88	-.07	.72
7	うわさ好きである	-.06	.63	.04	.40
1	1人の日記の内容が気になる	.13	.61	-.05	.41
11	異性との交際歴を知りたい	-.09	.61	.16	.46
6	どこかの出身地の人なのか聞いてみたい	.01	-.07	.91	.77
9	今、どこに住んでいるのか聞いてみたい	-.02	.12	.74	.64
10	人がどんな特技を持っているのか知りたい	.06	.00	.55	.31

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心  
 \* 上三角行列は因子間相関,下三角行列は尺度間相関を示す

調査1の適合度指標は $\chi^2(41) = 173.670, p < .001, CFI = .960, RMSEA = .062, 90\%CI [.053, .072]$ であり、  
 調査2の適合度指標は $\chi^2(41) = 500.831, p < .001, CFI = .951, RMSEA = .086, 90\%CI [.080, .093]$ であった。

1.新奇探索傾向が測定できているか？

Table 2  
対人的好奇心尺度と知的的好奇心および刺激希求尺度との相関分析

	大学生調査 (n=839)		全国web調査 (n=1500)	
	感情	秘密	感情	秘密
知的的好奇心尺度				
拡散的好奇心	.21***	.04	.16***	.82
特殊的好奇心	.21***	-.01	.06	.83
刺激希求尺度 <sup>a</sup>				
TAS	.17**	.16**	.20***	.85
DIS	.19***	.42***	.36***	.77
ES	.38***	.20***	.30***	.87

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心, TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking  
 a 大学生調査でのみ, n=320  
 \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05

妥当性の検討

- 1.対人的好奇心の3下位尺度は、刺激希求尺度のES(Experience Seeking)尺度との正の相関
- ・・・新奇探索傾向が測定できているか？
- 2.「感情」尺度は、多次元共感性尺度の他者指向的反応尺度と視点取得尺度及びRumination-Reflection Questionnaireの反芻尺度と省察尺度との正の相関
- ・・・「感情」傾向である内省的思考性の確認
- 3.「秘密」尺度は、刺激希求尺度のDisinhibition尺度及び多次元共感性尺度の被影響性尺度との正の相関
- ・・・「秘密」傾向である集団依存性の確認
- 4.「属性」尺度は、心理的well-being尺度の積極的な他者関係尺度との正の相関
- ・・・「属性」傾向である積極的な対人行動の確認

Table 3  
対人的好奇心尺度と関連尺度との相関分析

	感情	秘密	属性
Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ) <sup>a</sup>			
反芻	.26***	.11*	.03
省察	.33***	-.01	.17***
多次元共感性尺度 <sup>b</sup>			
被影響性	.03	.37***	.16***
他者指向的反応	.29***	.16***	.23***
想像性	.22***	.18***	.08
視点取得	.34***	-.01	.03
自己指向的反応	.01	.27***	.01
心理的well-being尺度 <sup>c</sup>			
人格的成長	.25***	.13	.24***
人生における目的	.07	-.05	.03
自律性	-.01	-.28***	-.14*
自己寛容	.09	.10	.21***
環境制御力	.19**	.09*	.19**
積極的な他者関係	.14*	.08	.32***

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心, TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking  
 a n=839, b n=320, c n=372, d n=352, e n=455, f n=261  
 \* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\* p<.001

- 感情の特徴で指摘されてきた情動知能の発達について、「感情」の高い人は、自己洞察や振り返りなどの内省的思考を活発にさせている事が考えられる。自己洞察や振り返りなどの内省傾向を測定する尺度の“Rumination-Reflection(反芻-省察)Questionnaire (以下“RRQ”)とする;高野・丹野,2008)を用いた。
- 「感情」と認知的な共感との関係や「秘密」と他者依存との関係を検討するために、多次元共感性尺度(鈴木・木野,2008)を用いる。
- そのほか好奇心は、知識や情報の獲得以外に、心身の健康に貢献する事が示されている(Kashdan et al, 2018)。とりわけ精神的な良好さを示す心理的well-beingとの関連では、探索の動因である好奇心は“Positive vital sign”として注目されている(Spielberger & Reheiser, 2003)。心理的well-being尺度を用いた。

Table 3  
対人的好奇心尺度と関連尺度との相関分析

	感情	秘密	属性	$\alpha$
<b>Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ)<sup>a</sup></b>				
反芻	.26***	.11*	.03	.87
省察	.33***	-.01	.17***	.81
<b>多次元共感性尺度<sup>b</sup></b>				
被影響性	.03	.37***	.16***	.81
他者指向的反応	.29***	.16***	.23***	.68
想像性	.22***	.18***	.08	.71
視点取得	.34***	-.01	.03	.69
自己指向的反応	.01	.27***	.01	.61
<b>心理的well-being尺度<sup>c</sup></b>				
人格的成長	.25***	.13	.24***	.86
人生における目的	.07	-.05	.03	.84
自律性	-.01	-.28***	-.14*	.81
自己受容	.09	.10	.21***	.86
環境制御力	.19**	.09*	.19**	.83
積極的な他者関係	.14*	.08	.32***	.76

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心,TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking  
<sup>a</sup>n=839, <sup>b</sup>n=320, <sup>c</sup>n=372, <sup>d</sup>n=352, <sup>e</sup>n=455, <sup>f</sup>n=261  
 \*, <sup>g</sup>p<.05, \*\*, <sup>h</sup>p<.01, \*\*\*, <sup>i</sup>p<.001

## 2. 「感情」傾向である内省的思考性の確認

「感情」の高い人は、自己洞察や振り返りなどの内省的思考を活発にさせている事が考えられる。

「反芻」「省察」との間で、有意な正の相関が示された。

「感情」尺度は、他者の心理や感情を理解したいという他者に対する接近動機が含まれる (Litman & Pezzo, 2005)。

「視点取得」・・・他者の心理状態を正確に理解しようとする認知傾向を示す,  
 「他者指向的反応」・・・他者への情緒的反応を示す

2尺度共に正の相関が示された

Table 3

	感情	秘密	属性	$\alpha$
<b>Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ)<sup>a</sup></b>				
反芻	.26***	.11*	.03	.87
省察	.33***	-.01	.17***	.81
<b>多次元共感性尺度<sup>b</sup></b>				
被影響性	.03	.37***	.16***	.81
他者指向的反応	.29***	.16***	.23***	.68
想像性	.22***	.18***	.08	.71
視点取得	.34***	-.01	.03	.69
自己指向的反応	.01	.27***	.01	.61
<b>心理的well-being尺度<sup>c</sup></b>				
人格的成長	.25***	.13	.24***	.86
人生における目的	.07	-.05	.03	.84
自律性	-.01	-.28***	-.14*	.81
自己受容	.09	.10	.21***	.86
環境制御力	.19**	.09*	.19**	.83
積極的な他者関係	.14*	.08	.32***	.76

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心,TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking  
<sup>a</sup>n=839, <sup>b</sup>n=320, <sup>c</sup>n=372, <sup>d</sup>n=352, <sup>e</sup>n=455, <sup>f</sup>n=261  
 \*, <sup>g</sup>p<.05, \*\*, <sup>h</sup>p<.01, \*\*\*, <sup>i</sup>p<.001

## 3. 「秘密」傾向である集団依存性の確認

「秘密」は、人の秘密やプライベートな情報などの人の私的情報への探索であり、この行動は快楽や娯楽を満たすための刺激欲求が強いとされ (Litman & Pezzo, 2005), 集団や他者への依存傾向も高いとされている (Dunbar, 2004)。

「被影響性」・・・他者の感情や意見に影響されやすい傾向を示す

被影響性との正の相関が示された。

自律性との負の相関が示された

この他、社会的な抑制を開放させるためにコミュニケーションなど社会的な話題、世間の流行情報やマスコミ情報など社会情報を求める傾向である「Disinhibition(以下“DIS”とする)」と秘密との相関は、.42と高い正相関が示された。

## 4. 「属性」傾向である積極的な対人行動の確認

「属性」の特徴である公的な対人情報への探索は、良好な社会関係に貢献する事が指摘されていた (Renner, 2006)。

「積極的な他者関係」との正の相関が示された

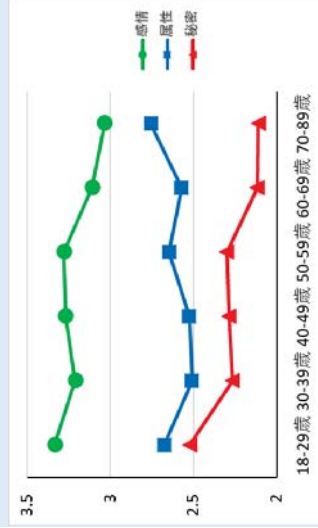
心理的well-being尺度の下位尺度には、  
 「人格的成長」自己の成長の可能性  
 「人生における目的」人生の目的とその認識の高さ  
 「自律性」何事でも自己決定できる高い自律性  
 「環境制御力」複雑な周囲の環境を統制できる感覚  
 「自己受容」自己に対する積極的な受容  
 「積極的な他者関係」信頼の高い他者関係を構築できる自信

Table 3

	感情	秘密	属性	$\alpha$
<b>Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ)<sup>a</sup></b>				
反芻	.26***	.11*	.03	.87
省察	.33***	-.01	.17***	.81
<b>多次元共感性尺度<sup>b</sup></b>				
被影響性	.03	.37***	.16***	.81
他者指向的反応	.29***	.16***	.23***	.68
想像性	.22***	.18***	.08	.71
視点取得	.34***	-.01	.03	.69
自己指向的反応	.01	.27***	.01	.61
<b>心理的well-being尺度<sup>c</sup></b>				
人格的成長	.25***	.13	.24***	.86
人生における目的	.07	-.05	.03	.84
自律性	-.01	-.28***	-.14*	.81
自己受容	.09	.10	.21***	.86
環境制御力	.19**	.09*	.19**	.83
積極的な他者関係	.14*	.08	.32***	.76

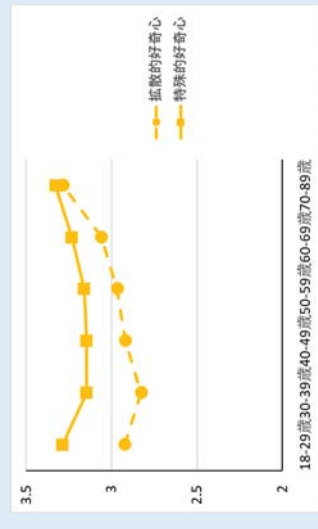
注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心,TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking  
<sup>a</sup>n=839, <sup>b</sup>n=320, <sup>c</sup>n=372, <sup>d</sup>n=352, <sup>e</sup>n=455, <sup>f</sup>n=261  
 \*, <sup>g</sup>p<.05, \*\*, <sup>h</sup>p<.01, \*\*\*, <sup>i</sup>p<.001

## 年齢と好奇心(全国web調査, N=1500)



年齢との相関

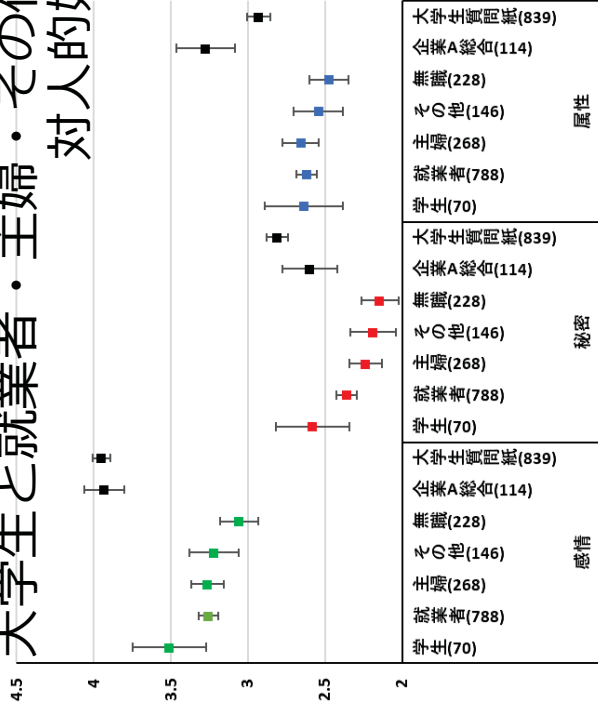
感情 -.08\*\*  
 秘密 -.12\*\*  
 属性 .01



年齢との相関

拡散 -.10\*\*  
 特殊 -.01

# 大学生と就業者・主婦・その他における 対人的好奇心得点



エラーバーは  
95%CI

# 今後の研究

- 幅広い年齢層での関連分析が必要。  
(今回の相関分析では、大学生のみのサンプル)
- 対人的好奇心の下部尺度得点は、組織間や集団間で差異がある。  
その集団間比較から対人的好奇心の個人差を検討。
- 社会的行動（パターneyや催しに行くなど）や、対人行動（援助行動）との関  
連を状況や環境要因を考慮して検討。
- 対人的好奇心と、情動知能との関連を検討。

# 参考文献

- Dunbar, R. I. (1996). Grooming, Gossip and the Evolution of Language. Cambridge: Harvard University Press.
- Kashdan, T. B., Stikma, M. C., Disabato, D. J., Mcknight, P. E., Bekier, J., Kaji, J., & Lazarus, R. (2018). The five-dimensional curiosity scale: Capturing the bandwidth of curiosity and identifying four unique subgroups of curious people. *Journal of Research in Personality*, 73, 130–149.
- Litman, J. A., & Pezzo, M. V. (2007). Dimensionality of interpersonal curiosity. *Personality and Individual Differences*, 43, 1448-1459.
- Spielberger, C. D., & Reheiser, E. C. (2003). Measuring anxiety, anger, depression, and curiosity as emotional states and personality traits with the STAI, STAXI, and STPI. In Hilsenroth M. J. & Segal D. L. (Eds.), *Comprehensive handbook of psychological assessment, Vol. 2. Personality assessment* (pp. 70 - 86). New Jersey: John Wiley & Sons.

Table 3  
対人的好奇心尺度と関連尺度との相関分析

Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ) <sup>a</sup>	感情	秘密	属性	$\alpha$
反芻	.26 ***	.11 *	.03	.87
省察	.33 ***	-.01	.17 ***	.81
多次元共感性尺度 <sup>b</sup>				
被影響性	.03	.37 ***	.16 ***	.81
他者指向的反応	.29 ***	.16 ***	.23 ***	.68
想像性	.22 ***	.18 ***	.08	.71
視点取得	.34 ***	-.01	.03	.69
自己指向的反応	.01	.27 ***	.01	.61
心理的well-being尺度 <sup>c</sup>				
人格的成長	.25 ***	.13	.24 ***	.86
人生における目的	.07	-.05	.03	.84
自律性	-.01	-.28 ***	-.14 *	.81
自己寛容	.09	.10	.21 ***	.86
環境制御力	.19 **	.09 *	.19 **	.83
積極的な他者関係	.14 *	.08	.32 ***	.76

注)感情=人の感情への好奇心、秘密=人の秘密への好奇心、  
属性=人の属性への好奇心、TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking

<sup>a</sup>n=839, <sup>b</sup>n=320, <sup>c</sup>n=372, <sup>d</sup>n=352, <sup>e</sup>n=455, <sup>f</sup>n=261  
\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

多次元共感性尺度の視点取得尺度と他者指向的反応尺度の両方で、「感情」との間で正の関連が示された。  
この両者の高さは、道徳的観点に基づいた適切な社会的行動との関連があるとされている（櫻井・村上, 2015）。**対人場面や社会場面での道徳的判断において、「感情」の好奇心探素が重要な役割を示しているかもしれない。**



Table 3  
対人的好奇心尺度と関連尺度との相関分析

	感情	秘密	属性	$\alpha$
<b>Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ)<sup>a</sup></b>				
反芻	.26 ***	.11 *	.03	.87
省察	.33 ***	-.01	.17 ***	.81
<b>多次元共感性尺度<sup>b</sup></b>				
被影響性	.03	.37 ***	.16 ***	.81
他者指向的反応	.29 ***	.16 ***	.23 ***	.68
想像性	.22 ***	.18 ***	.08	.71
視点を取得	.34 ***	-.01	.03	.69
自己指向的反応	.01	.27 ***	.01	.61
<b>心理的well-being尺度<sup>c</sup></b>				
人格的成長	.25 ***	.13	.24 ***	.86
人生における目的	.07	-.05	.03	.84
自律性	-.01	-.28 ***	-.14 *	.81
自己受容	.09	.10	.21 ***	.86
環境制御力	.19 **	.09 *	.19 **	.83
積極的な他者関係	.14 *	.08	.32 ***	.76

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心, TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking

<sup>a</sup> n=839, <sup>b</sup> n=320, <sup>c</sup> n=372, <sup>d</sup> n=352, <sup>e</sup> n=455, <sup>f</sup> n=261  
\* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\* p<.001

多次元共感性尺度の自己指向的反応尺度では、「秘密」との間で正の関連が示された。

自己指向的反応は、他者の状況に応じて不安や動揺を感じる共感であり、個人的苦痛とも呼ばれる（鈴木・木野, 2003）。そのほかの「秘密」尺度は、被影響性尺度や自律性尺度と関連を持つことから、「秘密」には周囲の状況や流行、他者の状況や反応に対して敏感に反応する傾向があると考えられる。対人場面、テレビ、雑誌・新聞やSNSにおける流言やうわさの情報取得において、「秘密」の好奇心探索が深く関わっていることが考えられる。

Table 3  
対人的好奇心尺度と関連尺度との相関分析

	感情	秘密	属性	$\alpha$
<b>Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ)<sup>a</sup></b>				
反芻	.26 ***	.11 *	.03	.87
省察	.33 ***	-.01	.17 ***	.81
<b>多次元共感性尺度<sup>b</sup></b>				
被影響性	.03	.37 ***	.16 ***	.81
他者指向的反応	.29 ***	.16 ***	.23 ***	.68
想像性	.22 ***	.18 ***	.08	.71
視点を取得	.34 ***	-.01	.03	.69
自己指向的反応	.01	.27 ***	.01	.61
<b>心理的well-being尺度<sup>c</sup></b>				
人格的成長	.25 ***	.13	.24 ***	.86
人生における目的	.07	-.05	.03	.84
自律性	-.01	-.28 ***	.14 *	.81
自己受容	.09	.10	.21 ***	.86
環境制御力	.19 **	.09 *	.19 **	.83
積極的な他者関係	.14 *	.08	.32 ***	.76

注)感情=人の感情への好奇心,秘密=人の秘密への好奇心,属性=人の属性への好奇心, TAS=Thrill and Adventure Seeking, DIS=Disinhibition, ES=Experience Seeking

<sup>a</sup> n=839, <sup>b</sup> n=320, <sup>c</sup> n=372, <sup>d</sup> n=352, <sup>e</sup> n=455, <sup>f</sup> n=261  
\* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\* p<.001

「属性」尺度は、「感情」尺度や「秘密」尺度に比べて、より多くの尺度で強い正の関連が示された。また抑うつ指標である反芻尺度（高野・丹野, 2008）や、特性不安と関わるストレス耐性尺度（Kashdan et al., 2018）との相関分析において、「属性」尺度は、「感情」尺度や「秘密」尺度に比べて弱く無相関であった。

「属性」にはポジティブ指向の高い探索が存在し、「属性」は、対人的好奇心の中でもPositive vital signとしての役割が考えられる。